

京都市子どもはぐくみ要録(学籍等に関する記録)

年度 区分	年度						
学級							
整理 番号							

園児 *	ふりがな 氏名						性 別
		年	月	日生			
	現住所						

保護 者 *	ふりがな 氏名						
	現住所						

入園 *	年 月 日	入園前 の 状況					
転・ 入園	年 月 日						
転・ 退園	年 月 日	進学・ 就学先 等 *					
修了 *	年 月 日						

園名及び所在地 *							
--------------	--	--	--	--	--	--	--

年度及び入園(転入園) ・進級時等の園児の年齢	年度 歳 か月	年度 歳 か月	年度 歳 か月	年度 歳 か月
園 長 氏 名				
担 当 者 氏 名				

年度及び入園(転入園) ・進級時等の園児の年齢	年度 * 歳 か月 *	年度 歳 か月	年度 歳 か月
園 長 氏 名			
学級担任者 氏 名			

入園(所)時の 園児の姿			
<small>※必要に応じて、入園(所)時から およそ1箇月までの園児の姿を記載</small>			

* 保育園(所)における必須記載事項(保育所保育指針の適用に際しての留意事項について(平成30年3月30日付け子保発0330 第2号厚生労働省子ども家庭局保育課長通知))

京都市子どもはぐみ要録(指導等に関する記録)

ふりがな*		健康		明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
氏名*			ねらい	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
	年 月 日 生	人間関係		健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。
性別*		(発達)		幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
出欠状況	年度	環境		身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
		言葉		社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
	教育日数		表現	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
	出席日数			身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする。
		*		身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。
				自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
				人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
				日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等や友達と心を通わせる。
				いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
				感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
				生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
	指導の重点等 (学年の重点)	指導上参考となる事項		
	(個人の重点)			
	*			(備考)

学年の重点:年度当初に、教育課程及び全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入

個人の重点:1年間を振り返って、園児の指導について特に重視してきた点を記入

指導上参考となる事項:保育は養護と教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、各事項を記入すること。

①1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

・幼稚園においては、幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、保育所及び幼保連携型認定こども園においては、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、同指針にあっては、第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、同要領にあっては、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

・園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。

②次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③最終年度の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して園児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するように留意すること。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に園児の育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

④備考欄については、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動を行っている場合には、必要に応じて当該教育活動を通じた幼児の発達の姿を記入すること。また、園児の健康の状況等、「特に配慮すべき事項」がある場合に記入すること。保育所において、指導等の記録を1頁に収めたい場合には、「最終年度に至るまでの育ちに関する事項」を記載することも可能であること。

京都市子どもはぐくみ要録(指導等に関する記録)

ふりがな			ねらい(発達を捉える視点)	健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	
氏名				人間関係	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	
年 月 日 生	年	月		環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	
性別				言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等や友達と心を通わせる。	
出欠状況	教育日数	年度		表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	
	出席日数	年度				
年度(年少児(3歳児))	指導の重点等 (学年の重点)			指導上参考となる事項		
	(個人の重点)				(備考)	
年度(年中児(4歳児))	指導の重点等 (学年の重点)			指導上参考となる事項		
	(個人の重点)				(備考)	

学年の重点: 年度当初に、教育課程及び全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入

個人の重点: 1年間を振り返って、園児の指導について特に重視してきた点を記入

指導上参考となる事項: 保育は養護と教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、各事項を記入すること。

①1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

・幼稚園においては、幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、保育所及び幼保連携型認定こども園においては、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、同指針にあっては、第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、同要領にあっては、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

・園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。

②次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③備考欄については、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動を行っている場合には、必要に応じて当該教育活動を通した幼児の発達の姿を記入すること。また、園児の健康の状況等、「特に配慮すべき事項」がある場合に記入すること。

ふりがな		指導の重点等 (個人の重点)	保育の過程と園児の育ちに関する事項
氏名			
年 月 日生			
性別			
ねらい (発達を捉える視点)	健康 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。	年度(0歳児)	(特に配慮すべき事項)
	身近な人と気持ちよく 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 体の動きや表情、発声等により、保育士・保育教諭等と気持ちを通わせようとする。 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。		
	身近なものと関わり 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 身体の一部感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。		
ねらい (発達を捉える視点)	健康 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。	年度(1歳児)	(特に配慮すべき事項)
	人間関係 保育所・幼保連携型認定こども園での生活を楽しく、身近な人と関わる心地よさを感じる。 周囲の園児等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。 保育所・幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。		
	環境 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。		
ねらい (発達を捉える視点)	言葉 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。	年度(2歳児)	(特に配慮すべき事項)
	表現 身体の一部感覚の経験を経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。		
	指導の重点等 (学年の重点)		

学年の重点:年度当初に、教育課程及び全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入

個人の重点:1年間を振り返って、当該園児の指導について特に重視してきた点を記入

保育の過程と園児の育ちに関する事項:保育は養護と教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、各事項を記入すること。

①1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

・保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、同指針にあっては、第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、同要領にあっては、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。

その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。

・園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。

②次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③「特に配慮すべき事項」には、園児の健康の状況等、指導上特記すべき事項がある場合に記入すること。